みどりを育む
横造協だより

発　行　Vol.27
社団法人　横浜市造園協会
広報委員会
横浜市中区尾上町1-6　住友生命横浜関内ビル７階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

「緑豊かなまち横浜」を次世代へ

横浜市長　林　文子

はじめに

昨年の東日本大震災から、1年が経ちました。原発事故に伴う放射線対策や、節電対策といった、本当に難しい課題に取り組んだ1年間でした。横浜市造園協会の皆様には、公園利用者の安全確保、被害箇所の修繕工事、公園施設の一時休止による節電など、多大な御尽力をいただきました。改めて、御礼申し上げます。

昨年は、ヨコハマトリエンナーレ２０１１などを通じて、多くのお客様を横浜にお迎えし、魅力ある緑の街並みを多くの方に感じていただけたと思います。横浜は、市街地の中に緑が残る、とても美しい街であり、5年連続で「住みたい街」日本一となっています。また、環境問題などに対応する先進的なモデルとして、環境未来都市にも選定され、今後ますます国内外に横浜の取り組みを発信していく機会が増えます。様々な機会を捉え、この緑豊かな横浜を、もっともっと魅力的に、元気にしていきたいと思っています。

たちばなの丘公園

横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）

豊かな緑の実感と次世代への継承

横浜市は、平成21年度から、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、**「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」**を３つの柱として、横浜みどり税を財源として活用し、「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」に取り組んできました。

「樹林地を守る」施策では、樹林地の保全指定を進めており、これまでに約２７０haの新規指定を行っています。

また、保全された民有樹林地の維持管理に対する助成や、保全管理計画の策定、森への関心と理解を深めるための講座などを行い、多くの市民の方々に森の大切さを感じていただいています。

「農地を守る」施策では、水田の保全がさらに進み、約１１０haの水田の保全が図られています。また、農家の経営改善の支援などを行っており、農家の生産環境が向上しているほか、収穫体験ができる農園の開設支援により、多くの市民の方々が農にふれあえる機会が増えています。

「緑をつくる」施策では、地域ぐるみでの緑化計画づくりが進み、12地区で活動に取り組んでいます。園庭・校庭の芝生化や、屋上緑化、壁面緑化への助成などの取り組みも進んでおり、公共施設や民有地での緑化が進んでいます。

「横浜みどりアップ計画」は、今年はいよいよ計画の4年目を迎えます。計画の目標達成に向けて、引き続き全力で取り組むとともに、今までの成果を市民の皆様に実感していただけるよう、わかりやすい広報を行うよう努めていきます。

市民の皆様とともに、みどりを守り、つくり、育てる「横浜みどりアップ計画」は、みどり豊かな美しい横浜をつくっていくことや、将来を担う子どもたちのためにも、大変重要な取組だと考えており、このような取組をさらに長いスパンで継続的に実施していくことが本当に大切なことです。このため、現計画の実績を十分に検証し、今後どのように取り組んでいくか、検討したいと考えています。

森への関心を高める講座
（横浜自然観察の森）

公園の整備

生活の安全と快適を担う公園

市民の皆様にとって身近な公園は、潤いと安らぎを与えるだけでなく、子育てや健康づくり等の場ともなる重要な場所です。魅力ある公園の計画的な整備を進めるとともに、より安全で楽しく利用できるよう、地域の御要望を踏まえながら、再整備や改良を行います。また、多様なレクリエーションの要望に応える、大規模な公園の整備を進めていきます。

23年度は、横浜公園の再整備が完了し、たちばなの丘公園、矢沢なかよし公園、駒岡堂ノ前公園等の特色ある公園が開園しました。また、ポートサイド公園等の拡張整備を行い、多くの方にご利用いただいています。

24年度は、新横浜公園、（仮称）旧住友邸庭園、（仮称）四季美台公園等において、引き続き整備を行い、魅力ある公園づくりを進めます。よこはま動物園「ズーラシア」においては、「アフリカサバンナゾーン」の整備を進め、動物園の早期完成を目指します。

おわりに

横浜は、豊かな緑がある、とても美しい街です。緑の保全・創造の取り組みや安全で快適な公園づくりは、市民の皆様の快適で活力ある生活に欠かすことのできない重要な取り組みです。

「横浜市中期4か年計画」の中でも、緑の保全・創造は重要な施策として掲げております。環境行政を総合的に推進するため平成23年4月に策定した「横浜市環境管理計画」、世界的に重要な課題である生物多様性の保全について、今後の取り組むべき課題を示した「ヨコハマbプラン（生物多様性横浜行動計画）」等の様々な関連施策と連携し、緑の保全・創造の取組を総合的に取り組んでいきたいと考えています。

横浜市造園協会の皆様には、公園緑地の整備、維持管理、緑化など、横浜の緑をつくり、育む担い手として活躍していただいています。市民の身近な緑を守り育てるには、長年培われてきた知恵と技術を持つ皆様のお力添えが不可欠です。今後とも、皆様の御理解、御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

また、公園は防災の面でも大切な役割を持つ施設であることが、この度の震災で再認識されました。良好な公園機能を維持し、安全で快適に公園を利用していただけるよう、老朽化した施設の改修、バリアフリー化、公園内建築物の耐震化などを進めます。

略歴

１９４６年東京都生まれ。東京都立青山高校卒業後、東レ、松下電器などを経てホンダの販売店へ。87年にＢＭＷ東京入社。新宿支店長に抜擢され、98年に中央支店長に。その後フォルクスワーゲングループにスカウトされて99年ファーレン東京代表取締役社長に就任。２００３年、ＢＭＷ東京代表取締役社長を経て、05年ダイエー代表取締役会長兼ＣＥＯに。08年東京日産自動車販売代表取締役。09年８月より現職。

平成24年新年賀詞交歓会を開催

緑の保全に心していきたい…市長

副市長の乾杯で幕を開け

平成24年1月6日（金）ホテル横浜ガーデンにおいて、平成24年新年賀詞交歓会を開催した。

横浜市長　林　文子様
横浜市会議長　佐藤　茂様
自民党横浜支部連合会会長　松本　純様
自民党神奈川県支部連合会会長　菅　義偉様にご祝辞をいただき、副市長　山田正人様の乾杯のご発声で開会。

環境創造局長　荻島尚之様　政策局長　浜野四郎様　資源循環局長　大熊洋二様　道路局長　友田勝己様はじめ多くのご来賓にご参会いただいた。

佐藤横浜市会議長ご祝辞

佐藤横浜市議

横浜市造園協会の皆様方には、ご支援かつ温かいご指導をいただき、市政に反映すべく努力をしております。横浜に根をはる地元企業に元気になっていただきたく、中小企業振興基本条例を成立させていただきました。また、第5回アフリカ開発会議の開催等、横浜市会・市としては大都市として大きな元気を発信しなければと思っております。

皆様方にもお力添えのほどをよろしくお願い申し上げます。（文責編集）

重要な防災への公園・緑地

自然と共にある業界の出番

生駒隆一会長

大地震発生より10か月を経過しようとしている現在、災害にあった地域は国・県・基礎自治体・ボランティアなどの協力のもと懸命な復興作業が進められております。

被災された人々が早く従来の生活に戻れるように迅速な対応を切にお願いする次第です。

災害が発生した時、公園や緑地が果たす役割は、今回の東日本大震災また阪神淡路大震災の例があるとおり、大変大きな防災機能を発揮します。津波や大火の有効な避難地となり、また人員・物資の整理・重量物仮設資材の搬送など防災拠点にもなります。

このように防災公園・防災緑地は都市にとって不可欠です。まだまだこの横浜に防災公園・防災緑地の数や震災施設が足りません。災害はいつ突然にやってくるか解りません。一刻も早くの計画整備をお願いする次第であります。

私ども造園協会も横浜市と結んでいる災害協定を見直し、災害が発生した時、地域コミュニティーと素早く行動対応出来るよう仕組み組織作りをしております。

自然を知り自然と共にある人間社会で、その空間を計画し工事する我々の業界の出番であります。

造園に携わる我々が、地域に精通している我々が、今まで以上に緑を活かした安心安全な住みやすい街横浜を目指して協力させていただきます。（抜粋）

市民に寄り添って

行政成果を出す年に

林文子市長

横浜市会は大変に伝統のある品格のある市議会でございます。

林市長は大阪都構想に対して少し負けているのではないかと。「少し声を出せ」というお話もいただいておりますけれども、私といたしましては、行政の世界とは市民の皆様の生活に出来るだけ傍に寄り添っていただいて、そして議員の先生方と一緒に、中長期的な政策をきっちりまとめ上げて、それを我々が市の職員と一緒に確実に実行していく。それが最初の務めであろうかと思い私は仕事をしてきたつもりです。

今年は就任いたしましてお蔭様で3年目、2年4か月が過ぎた所でございますので、成果を出す年だと考えております。「横浜みどり税」もいよいよ4年目ということでございます。

まだまだ使い足りてないのではというご意見もございますが、私は何と言っても大都市の横浜が水と緑で都市の価値を上げていますので、そういう意味では緑の保全という事には心してまいりますので、何卒またご協力の程お願い申し上げます。

私もこの年の初め、やっと3日間のお休みが取れ一生懸命お庭のお掃除をしておりました。

生きとし生けるものこの草花が私たちに与えてくれる喜び、そこに飛んでくる小鳥たち。春になればチョウも夏になればトンボも飛んでくると思います。子供たちを健康に育てる為にも、皆様のお役目緑の保全が大切と思っております。

私ども環境未来都市にも当選いたしました。ご一緒にまたご協力を切にお願いするところでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。（抜粋）

横浜市造園技術交流会

第26回工事安全パトロール

1月27日横浜市造園技術交流会事業の一環として、環境創造局発注工事の現場において、安全管理の状況を合同で巡視することにより、更なる安全管理体制の強化を図ることを目的に第26回工事安全パトロールを実施した。

出席者

横浜市環境創造局
造園技術交流会
・幹事（4名）
・担当工事主任監督員・担当監督員（4名）
・事務局（3名）

当協会

・安全委員会（7名）
・技術委員会（1名）
・緑の諮問委員会（1名）

点検対象

・久良岐公園南側園地整備工事
・新横浜公園遊具広場・ドックラン整備工事

委員長コメント

全体的には良好でしたが、左記の改善事項がありました。

会員各社におかれましては、常に安全確認を怠ることなく本年度の標語を再度認識し、無事故・無事故を目指していたします。

「平成23年度標語」

ヒヤリで済んだあの経験
ハッと感じたあの教訓
活かして続ける無災害

改善事項

・開削箇所の養生または工程を調整し埋戻しを行う。
・災害防止協議会と安全パトロールは分けて記録すること。
・代理人は管理者との立会いの記録の有無を確認すること。
・立入防護柵の結束線が突出している。（歩行者への配慮）
・既設バリケードの劣化部分の補修を行う。
・工事車両が工事範囲外に駐車されている。

横浜市の公園の防災機能について

横浜の公園と震災

横浜市環境創造局
みどりアップ推進課
課長　槇　重善

港町ヨコハマの山下公園が「どうしてできたのか」を御存知でしょうか。

この公園は、1923年（大正12年）に発生した関東大震災により被害を受けた市内で発生した瓦礫などを埋立てた場所を基盤とし、復興事業の一つとして作られました。

関東大震災からおよそ7年後の1930年（昭和5年）に開園し、82年経った現在では日本を代表する観光スポットとなっています。震災復興では、他に野毛山公園と神奈川公園が作られました。

大都市横浜において、公園には様々な役割が期待され、整備されてきましたが、昨年の東日本大震災の体験は、都市の防災にとって公園が大きな役割を持つことを、改めて認識する機会となりました。

横浜市防災計画における公園の役割

現在の横浜市防災計画における公園の役割、位置づけを紹介します。

①災害発生時

災害発生時における公園が担う役割が大きく2つあります。

・いっとき避難場所

まずは初期避難場所としての公園です。地震の直後に建物内にいることが危険な場合に一時的に避難する場所です。

地域の住民の方々がさらに地域防災拠点に指定されている小中学校や、広域避難場所に避難するための集合場所にもなっています。

大きさの規定はありませんが、ある程度の広場のある一番身近な街区公園などが、地域ごとの自主的な判断で選定されています。

また、帰宅困難者の一時避難場所となる公園としては、中区の横浜公園、神奈川区の沢渡中央公園、西区の岡野公園を指定しています。東日本大震災の時には多くの人が一時的にこれらの公園に避難しました。

・広域避難場所

もう一つが市街地で大火災が発生した時の避難場所です。山下公園も広域避難場所として指定しています。横浜市は現在全部で121か所の広域避難場所を指定していますが、公園を主体とするものが30か所、関連する公園数では120公園あります。残りは大規模な共同住宅などの民間施設等を指定しています。また、広域避難場所には消火用の防火水槽やポンプなど防災用の機材が収められた倉庫を備えています。

災害時用簡易トイレ（神奈川区神大寺中央公園）

防災備蓄庫を備えた公園（鶴見区入船公園）

②災害発生時～復興期

災害発生から日数が経過すると、救援物資等の物流拠点や、援助隊の活動拠点等に役割が変化します。

・中核的広域防災拠点

市外からの広域的な応援部隊の集結や全国から集まる支援物資の集配・搬送など広域的な応急活動を展開する場所として、基幹交通施設の要所である地区などを指定しています。新横浜周辺地区における新横浜公園の日産スタジアムなどがあります。

・広域応援活動拠点

自衛隊、緊急消防援助隊、広域緊急援助隊（警察）の応援部隊が被災地で円滑に救助・救出活動を行うための活動拠点となる施設です。県立高校を中心に指定していますが、公園では中区の根岸森林公園や、神奈川区の三ツ沢公園などを指定しています。

・物資集配拠点

災害用地下給水タンクを使用した訓練（中区横浜公園）

救援物資の受入れ、仕分整理などをする場所として、公園では、鶴見区の入船公園と港北区の岸根公園を指定しています。この2つの公園内には水や乾パン、発電機やエンジンカッターなどの防災資機材を収納している備蓄庫を設置しています。

③復興期

さらに日数が経過すると、仮設住宅や、一時的な廃材集積の場所等の利用を想定しています。

その他の役割としては、非常用飲用水の地下タンクの設置、ヘリコプターの臨時着陸場としての機能などがあります。

防災力の強化に向けて

東日本大震災後に行われた横浜市平成23年度市民意識調査の「今後、充実すべきだと思う公共サービスは何ですか」という質問では、「地震などの災害対策」が1位となりました。更なる安全・安心への取組が求められています。現在、横浜市では、東日本大震災の発生を受けて、消防局を中心に災害に強い街づくり、防災対策の強化を進めています。その中には問題となった帰宅困難者対策や、津波対策を含め防災計画の見直しも含んでいます。

横浜市防災計画以外でも、区が独自に、広域避難場所に指定されている公園に災害時用トイレを備える取組も、まだ数は少ないですが始められています。また、公園自体が少ない地区については、公共施設の土地利用転換などの様々な機会をとらえて、公園を増やしていきたいと考えています。

一方、施設の整備だけではなく、災害時には地域コミュニティによる自主的な活動や、地元企業の協力などが、避難場所の運用・運営などにおいて大変重要な役割を果たします。そのためには日頃から公園が、地域行事の開催などで活発に利用され、地域コミュニティが醸成されていることが大切です。地域住民の方々の一体感を高めることにつながる公園愛護会活動の支援などを今後も行ってまいります。

最後に、横浜市造園協会の皆様には以前から災害時の応急対応の協力について協定を締結していただいています。これまでの御協力にお礼を申し上げますとともに、今後も横浜市民の安全・安心のために力をお貸しくださるようお願いいたします。

二つの防災公園を視察

日程
平成23年11月27日（日）～28日（月）

視察場所
兵庫県立三木総合防災公園
神戸市　みなとの森公園（神戸震災復興記念公園）

参加者
顧問・理事及び緑の諮問委員会（23名）

説明者
■兵庫県立三木総合防災公園
兵庫県県土整備部参事　橘俊光様、日本造園建設業協会兵庫県支部長　中西　勝様、同事務局長　藤沢　昭則様他
■神戸市 みなとの森公園（神戸震災復興記念公園）
神戸市建設局公園砂防部主幹　東野　太様、神戸市造園協力会会長　東　真様、同副会長　津田　勲様、同事務局長　藤沢　昭則様他

視察を終えて

阪神淡路大震災の経験と教訓を経て計画された2つの公園である。両公園とも都市公園として防災機能を持つ特色が参考になった。

◇

「三木総合防災公園」

広域防災拠点としてのネットワークの形成を目的とし、県内5つの広域防災拠点との人材、物資の連携が可能な立地で、兵庫県全域をカバーする広域防災拠点として位置づけされている。

また、管理運営に関しては指定管理者制度で、（財）兵庫県園芸・公園協会が受託している。東日本大震災においては、震災直後から約2週間の間公園の備蓄倉庫から、α化米5万食、毛布1万枚、ブルーシート2千枚、仮設トイレ2百基などを宮城県に送り出した。物資の発送作業においては県民のボランティアの参加があった。

また、被災地に向かう救援隊（山口県消防隊）103人の宿泊所としての機能も果たすなど、運営面においても広域防災拠点としての機能を発揮していた。

「みなとの森公園（神戸震災復興記念公園）」

震災で発揮されたボランティア精神を後世に伝えていくため『市民と協働でつくり育てる公園』を目指し、また、都心の防災機能を強化する公園として整備された。

公園の設計から整備、さらに管理運営に至るまで、市民ワークショップによってつくり育てている様子が伺えた。市民が草花を種から育てる苗圃の設置や若者の居場所作りのためのニュースポーツ広場の設置など市民のユニークな発想を行政が下支えし現在も市民の手で管理運営されているところは『手づくりの公園』といえる。

以上、二つの防災公園の機能が、有事への備えと平時の利活用がしっかりとなされて本当に市民が必要とする公園であることを実感した。

樹木に魅せられて（第22回）

㈱日産クリエイティブサービス
グリーンサービス部
佐々木　香

泣いているヒマがあるなら…

私は樹木に『魅せられて』本当にこの職についたのだろうか？

大学の造園学科を卒業後、道路関係の会社へ就職しました。そこではCADや色々なコンピューターを使わないと仕事にならず、当時まだパソコンがそれ程一般化されていない中で、自身も全く無知だった為、それを習得するまでは辛くて仕方ありませんでした。

しかし、道路設計の業務は年中年度末のようなバタバタで、同時に納期の重要性が最も厳しく求められたため、「泣いている暇があるなら早く仕事して間に合わせないと」と上司に指導され、悩んでいる余地もなく周りのスピードについていくのが関の山でした。

身体をこわしリタイヤも…

そうした中で地図の上に道路を描き、道路沿線、SA・PA、IC等植栽計画をしていく仕事は非常に目に見える達成感があることを感じるようになりました。ただ、その当時はまだ緑化というものを深く理解していたわけではなく、仕事に必要な材料としか考えていませんでした。

ようやく仕事もわかりかけて来た頃、身体を壊してしまい一時リタイヤしていました。

緑の世界へ誘った樹木

その後、市内の造園会社へお世話になることとなりました。ここは造園現場色の強い会社で前職のものとは全く相違した世界でした。学生時代実習でやったことがプロの技術を持って日本の文化・歴史を継承した空間を創造するもので、職人のプライドを目の当たりにしました。ただ、そこでの私は技術者ではなく気楽な事務員でした。そしてたまたま取得した1級造園施工管理技士が技術職復帰のきっかけとなりました。

今から十年前、現在の日産クリエイティブサービスに縁あって入社しました。当時の主な仕事は造園設計で、工場緑化やショッピングモール、病院、提供公園等々。ここでは白紙に一点を描くことから始まり、行政や設計事務所、クライアントと打ち合せをしながら施工、そしてその後の管理までずっと見届けて行くことです。植栽時小さいポット苗が年経過で生長していく様子や、大径木の移植で生育が悪くなったり、厳しい風潮害への対応等その都度心を痛めることができる環境があったことは、私をどんどん緑の世界に誘ってくれた気がします。季節感を醸し出すことができる修景緑化を提案出来ることや自分の趣向を提案できることは冥利に尽きるといったところでしょうか。

自然の素晴らしさへアプローチしたい

四季のうつろいを感じて欲しい

今は当社が指定管理者として受託している公園の運営管理に携わっています。公園に足を運んで頂ける利用者の皆さんに四季の移ろいを感じて頂き、賑わいの公園を創出し”来て良かった“と喜んで頂ける公園づくりを目指しています。

そのために植物の生理・生態に配慮した維持管理を最も配慮していますが、時には上手くいかないこともあり、未だ自然を相手にする難しさと共に色々勉強すべき事が多いとつくづく感じます。

今や流行ともいえる「環境教育」の原点は身近な自然の全てです。誰でももっと簡単に、身近に自然の素晴らしさを知って頂くための橋渡しができるように、これからも自然にアプローチしていきたいです。

平成23年度　横浜市優良工事表彰

10月26日マリンタワーホールにおいて、平成23年度横浜市優良工事表彰式が行われた。

適正な工事の施工・施工技術の向上および施工者の意欲の向上を目的として、横浜市が発注した工事を優秀な成績で施工した請負業者50社及び技術者69名が表彰された。

ここに土木・造園部門で受賞した作品（①会社名②工事箇所名③現場代理人氏名）及び技術者を紹介する。

請負業者表彰

①(有)エムテックグリーン
②下永谷第三公園施設改良工事

③望月浩次

①小島造園（株）
②（仮称）旧住友邸庭園下段植栽等整備工事

③藤平博俊

①（株）誠和緑化
②大崎公園ほか7公園施設改良工事

③石田　力也

①横浜庭苑（株）
②泉田向公園ほか5公園施設改良工事

③阿部純栄

技術者表彰

網本　薫
横浜緑地（株）

植草唯一
藤造園建設（株）

佐藤幸樹
（株）佐藤造園

萩原　達
（株）三橋緑化興業

阿部純栄
横浜庭苑（株）
石田力也
（株）誠和緑化
早乙女明
小島造園（株）
藤平博俊
小島造園（株）

訃報

坂田幸子氏（享年88歳）
株式会社 サカタのタネ
代表取締役社長
坂田 宏 氏ご母堂

相原ハナ氏（享年96歳）
相原造園土木株式会社
取締役会長
相原 信行 氏ご母堂

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

終わりの言の葉

震災・災害というキーワードを考える事が多い1年になりました、自分の住んでいる地域の広域避難場所・地域防災拠点など改めて調べ直した方も多いと思います。

横浜市には『わいわい防災マップ』という地震発生時の防災に役立つ情報（液状化の可能性・避難に適さない道路・崩壊危険区域等）の危険箇所と、（広域避難場所・地域防災拠点・避難に適する道路等）の避難経路・場所の情報が確認できるシステムがあります。災害協定を結んでいる協会員の一員として求められている事は、第一に地域特性情報の把握ではないでしょうか。震災から1年というこの機会に災害時の備えとして改めて地域特性の把握に努めたいと思います。

広報委員